
夢

アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢

【Nコード】

N9432X

【作者名】

アキ

【あらすじ】

実際に見た忘れられない夢の話です。

ある日私は夢をみた。

『早くお医者さんを呼んでこないと！』

ベッドの上には男の子。眠っているようにしか見えないのに、なぜか私は慌てていた。

そこは病院だった。

人気もなくとても静かな空間にいる。目の前に寝ている知らない男の子。

（もう助からない。）
私はそう悟っていた。

『みんな下で待っているよ。』

振り向くと、十数年前に亡くなったおじいちゃんがいた。
亡くなったおじいちゃんがいることに驚くこともなく、私は窓から下を見た。

下には車が停まっっていて、お父さんとお母さんが私を迎えに来てくれていた。

（この子をほおっておけない……）
男の子を見つめる私の気持ちが伝わったのか、

『この子は任せて』

おじいちゃんが言った。

『一緒に行かないの？』

そう聞くと、

『おじいちゃんは行けないんだ。でも…ここから見てるから大丈夫。』

『

気付くと私は車の横に立っていた。

『もう行くよ。』

誰かに言われ車に乗ろうとして、さっきいたはずの部屋を見た。でも、中は見えなかった。

走り出した車の中でおじいちゃんの言葉を思い出していた。

『おじいちゃんは何行けないんだ。でも…ここから見てるから大丈夫。』

『

部屋を出ようとした私の後ろからまた声がした。

『下からは見えないけどね。』

ここで目が覚めた。目の前には小さな骨壺。ホツとしたような不思議な気持ちになった。

数日前に亡くなった私の子供は、きつとおじいちゃんと一緒にいる。

初めて救われた気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9432x/>

夢

2011年10月26日13時12分発行